

## 防災について

◎8月の台風の時、30～40人が公民館に避難してきた。実際に大きな災害になると、樺漕以外の特に立江や沿岸部の人々が避難してくると思うが、大人数になったとき、収容できる施設も毛布などの備品も足りていない。どうしたらいいのか？

◎防災倉庫には、必要最小限度の資機材や備品が備えられているが、なお、消毒液等の医薬品や乳幼児のミルク・紙おむつは保管できないのか。

◎新開地区の防災倉庫の機材が、低い位置に入っているのも、もっと高い位置においてほしい。

<回答>

本市では公共施設と民間施設を併せて63の施設を指定避難所として指定しており、合計で10,441人が収容可能となっています。このうち小・中学校や市立体育館、公民館などの公共施設には、可能な範囲で備蓄食料、備蓄保存水、毛布、トイレセット等を配備しており、ミリカホール（保健センター）や小・中学校保健室には医薬品等の配備もあります。これらに加え、他の自治体や民間団体等から支援いただくことも想定して必要な協定を締結しているところであり、食料等の不足分や粉ミルク、紙オムツ等のスムーズな調達に努めます。

なお、県による南海トラフ巨大地震に係る津波浸水想定では、本市は平野部の殆どが浸水地域となっておりますが、備蓄資機材の配備位置を可能な限り高くできるよう、備蓄倉庫の設置施設の管理者等とも相談し、検討してまいります。

◎防災無線が聞こえない。緊急時の防災無線の放送が、家の中でいたら聞こえにくい。

<回答>

昨年12月に整備が完了した防災行政無線については、本年8月の台風襲来時などにも積極的に活用し、一定の効果を発揮しています。

一方では市民の方から「放送内容がよくわからない」といったご意見もいただいております。現在は、音声の聞こえ方等について検証を進めているところであり、引き続き詳細な調査を実施していきたいと考えています。

その結果、何らかの対策が必要と判断した地区については、当該地区の面積、人口等を勘案したうえで、効果的な方法を検討していきたいと考えております。

また、「屋内では聞き取りにくい」というご意見もございしますが、防災行政無線は、屋外の拡声棟から放送されていますので、屋内では聞き取りにくい構造となっており、補完設備として、テレホンサービス「35-4000」を用意しています。

なお、情報の提供については、防災行政無線以外に、テレビ、ラジオ、インターネット、携帯メール等、様々な媒体による、効果的な活用に努めてまいります。

◎金磯地区では避難タワーを建てるよりも道路を広げてほしい。

<回答>

金磯地区は住宅密集地でありながら高層階の建築物が少なく、津波緊急一時避難場所も3箇所収容可能人数は合計で532人となっており、更なる対策が求められているところであります。

避難タワーの建設につきましては、避難困難地域解消に向けた方法の一つとして一定の効果が期待されていますが、一方で平常時の活用方法や維持管理、また、耐用年数経過後における建て替えの検討など、様々な課題が考えられます。

このようなことも考慮に入れ、金磯地区に関しては、津波から少しでも遠く少しでも短時間で避難することを目的として、地域の皆様方にご協力いただきながら、幹線月ノ輪金磯線の整備に努めてまいりたいと考えております。

**◎勝浦川の警戒水位について、避難のタイミングがわからない。(インターネットのライブ映像等で見たい)**

＜回答＞

勝浦川の水位に関する情報に関しましては、インターネットのライブ映像ではありませんが、徳島県の県土整備情報サイトにおいて、江田水位観測所における水位情報が10分毎に更新されており、直近の情報取得が可能となっています。

また、避難のタイミングに関しては、堤防付近における濁色漏水等の状況や今後の雨量予測等を総合的に勘案したうえで、小松島市地域防災計画に定めるところにより、原則として「はん濫危険水位(4.2m)」を突破した時に避難勧告を、また、「計画高水位(6.43m)」を突破した時に避難指示を発令することとしています。こういった避難関連情報発令の際には、防災行政無線や広報車をはじめ、テレビ、ラジオ、携帯メール等、様々な手段により情報発信に努めることとしておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。